HAZARD MAP

朝日町 防災ハザードマップ

令和4年3月作成

ハザードマップの目的

平成23年3月11日に「東北地方太平洋沖地震」が発生し、東北地方の太平洋側に大きな被害をもたらしました。

この地方においても、南海トラフを震源とする**地震が今後30年以内に70〜80%の確率で発生すると予想されている**ほか、養老-桑名-**四日市断層をはじめとした活断層も多く存在**することから、**いつ大きな地震が発生してもおかしくない状況**となって**います。**

また、ここ**数年は台風や前線による大雨の影響で、河川の氾**濫、浸水害、**土砂災害の発生が頻発しています。とりわけ令和**元年東日本台風**(台風第19号)では、関東・東北地方を中心に**広い範囲で**記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。**さらに、伊勢湾**沿岸地域では高潮による被害が生じるおそれも**あります。

そこで朝日町では、**今後発生のおそれがある地震および風**水害、土砂災害に対**する危険度を掲載した「朝日町防災ハザ**ードマップ」を作成しま**した。このハザードマップを利用して災**害に対する危機意識を持っ**ていただき、災害が発生したとき**の安全かつ迅速な避難や事前の備え**について、日頃から家族**や地域の皆さんで話し合いましょう。

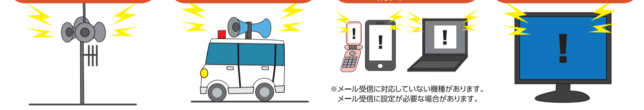
なお、このハザード情報は、現時点の科**学的知見に基づく**想定であり、決してこれ以上の規模で地震や風水害が発生しないわけではありません。

【問い合わせ先】
朝日町役場 〒510-8522 三重県三重郡朝日町大字小向893番地 TEL.059-377-5610 e-mail:bousai@town.asahi.mie.jp

避難情報

避難情報の伝達手段

災害が発生するおそれがある場合に、避難に関する情報を防災行政無線、広報車、緊急速報エリアメール、防災アプリ、報道機関などによりお知らせします。



※メール受信に対応していない機種があります。
メール受信に設定が必要な場合があります。

警戒レベルの種類ととるべき行動

警戒レベルは「居住者等がとるべき行動」と「行動を促す情報」(朝日町が発令する避難情報と気象庁が発表する注意報等)とを関連付けたものであり、災害発生のおそれに応じて5段階に分類されます。

避難情報等に注意を傾け、適切な避難行動をとりましょう。また、避難情報が発令されていない場合であっても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

【警戒レベル5】緊急安全確保(朝日町が発令)

とるべき行動：**既に災害が発生・切迫している状況です。命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう。**

	風水害	土砂災害
発令基準	堤防の決壊や越水・溢水が発生した場合	土砂災害が発生又は切迫しているとき

【警戒レベル4】避難指示(朝日町が発令)

とるべき行動：**災害が発生する危険が高まっています。速やかに危険な場所から避難しましょう。**

	風水害	土砂災害
発令基準	氾濫危険水位に到達したとき ●員弁川:安永観測所…5.52m ●朝明川:松寺観測所…2.63m	●土砂災害警戒情報が発表された場合 ●近隣で前兆現象(斜面のはらみ、擁壁・道路等にクラックが発生)が確認された旨の通報があったとき ●大雨警報(土砂災害)が発表され、かつ、予想で土砂災害警戒情報の基準を超過したとき

【警戒レベル3】高齢者等避難(朝日町が発令)

とるべき行動：**避難に時間を要する人(高齢者、障がい者、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から避難しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。**

	風水害	土砂災害
発令基準	避難判断水位に到達したとき ●員弁川:安永観測所…4.56m ●朝明川:松寺観測所…2.07m	●近隣で前兆現象(湧き水、地下水が濁り始めた、量が変化した)が確認された旨の通報があったとき ●大雨警報(土砂災害)が発表され、かつ、実況又は予想で大雨警報発表基準の土壌雨量指数基準(138)を超過したとき

【警戒レベル2】大雨・洪水・高潮注意報(気象庁が発表)

とるべき行動：**避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。**

発表される条件：**気象状況の悪化**

【警戒レベル1】早期注意情報(気象庁が発表)

とるべき行動：**災害の心構えを高めましょう。**

発表される条件：**今後気象状況悪化のおそれ**

要配慮者を支援するときの心得

要配慮者とは、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人など、災害発生時の対応に支援を必要とする人々のことです。要配慮者を災害から守るためには、地域全体の協力が不可欠です。災害時の情報提供や安否確認、避難誘導など必要に応じた支援をしましょう。

高齢者、妊産婦、子どもには
- 声をかけ、安否確認を行う。
- 介助しながら安全な場所まで誘導する。
- 荷物などを持ち、一緒に逃げる。

車いすの人には
- 階段や急坂では必ず2〜3人で介助する。
- 上がるときは前向き、下がるときは後ろ向きに。

知的障害のある人には
- 一人でいるときは、声をかけて落ち着かせる。
- 言葉で理解されない場合は、手を引いて安全な行動ができるよう誘導する。

目の不自由な人には
- 「お手伝いしましょうか?」と、まず声をかける。
- 杖を持った方の手をとらず、ひじのあたりに触れゆっくり歩く。

耳が不自由な人には
- 正面に向き合って口をやや大きめに動かしてゆっくり話し、口の動きで情報を伝える。
- 手話や筆談のほか、手のひらに指先で文字を書いて情報を伝える。

外国人には
- 身振り、手振りで話しかけ、孤立させない。

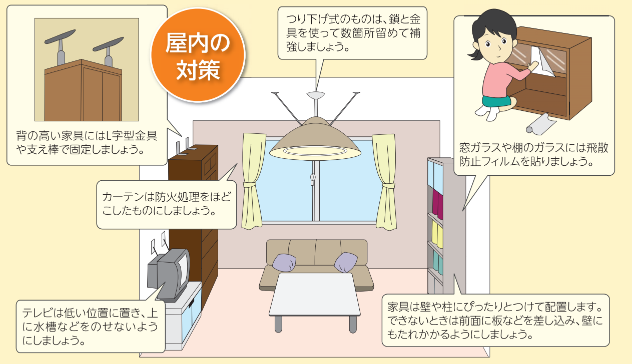
要配慮者のみなさんへ

災害時の混乱の中では、遠方の支援者がすぐにかけつけることは困難です。また、支援者自身が被災する可能性もあります。そのため、できる限り隣近所に複数の支援者をつくるようにしましょう。

隣近所の人に、自分が災害時に支援が必要であるという意思表示を行うことも大切です。協力を得られるように日ごろから、隣近所の人とコミュニケーションを取り、災害から身の安全を守る努力をしましょう。

地震防災対策

私たちができるもっとも手軽で有効な地震対策は家具の転倒・落下を防ぐ対策と、家の周囲のブロック塀などの安全対策です。いまのうちに家の内外を点検して、以下のような対策を進めておきましょう。



高潮情報

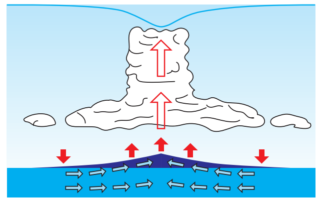
高潮の発生メカニズム

台風や発達した低気圧が通過するとき、海面が大きく上昇することがあります。この現象を「高潮」といいます。高潮で潮位が高くなっているときに高波があると、普段は波が来ないようなところまで波が押し寄せ、被害が拡大することがあります。また、満潮と高潮が重なると潮位は一層上昇して、大災害の発生につながるおそれがあります。高潮の発生要因としては「吸い上げ効果」と「吹き寄せ効果」の2つのことがあげられます。

吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周囲の空気は海水をおしつけ、中心付近の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

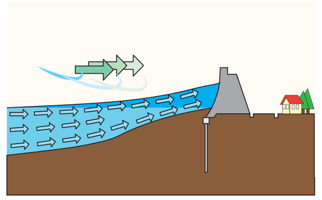
気圧が1hPa下がると、潮位は約1cm上昇するといわれています。例えば、それまで1000hPaだったところへ中心気圧950hPaの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50cm高くなります。



吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。

また、遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を増大させるように働き、特に潮位が高くなります。



高潮の被害

伊勢湾のように、湾口が南側に面し、湾の軸が台風の進路と一致する場合には、高潮が生じやすくなります。過去には、昭和28年の台風13号や昭和34年の伊勢湾台風において高潮被害が発生しました。

高潮による被害としては、浸水による溺死や、家屋の破損・流出、船舶の損傷・衝突など、さまざまな被害が発生します。

高潮被害の例

対象	被害形態の例
人的被害	溺死 漂流物によるけが 漂流中の異物の飲み込み等による病気　等
家屋被害	家屋の浸水・流出・破壊 浸水による電気製品等の障害　等
交通障害	<鉄道>線路冠水、法面洗掘、道床決壊、軌道移動、鉄橋変異、臨海線埋没 <道路>越波による地崩れ、道路冠水、漂流物衝突による変位や落橋、法面洗掘 橋台周辺の洗掘が原因の落橋、漂流物堆積による交通閉鎖 <港湾>土砂堆積による水深低下、局所洗掘による港湾構造物の破壊 流出物による港口閉鎖等の機能障害
ライフライン被害	<水道>漂流物衝突による消火栓・給水栓崩壊、河川よりの給水口の破壊 <電力>電柱倒壊・流出による送電停止、発電所浸水による障害や停電 <通信>電柱や架空ケーブルの被害、地下ケーブルの立ち上がり部切断、電話機の冠水被害 <下水道>排水溝を通じての浸水

わが家の防災メモ

避難所	
災害時避難場所	
家族が離れ離れになった時の集合場所	

家族の連絡先

氏名	電話番号	住所

緊急連絡先

名称	電話番号	住所
朝日町役場	☎059-377-5610	大字小向893
四日市市北消防署 朝日川越分署	☎059-377-4945	大字小向375-2
四日市北警察署	☎059-366-0110	四日市市松原町4-32
朝日・川越交番 (令和4年3月31日現在)	☎059-365-4550	川越町大字豊田一色257-1

防災情報の取得先

名称	取得情報/URL
気象庁の防災情報	http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html
三重県 防災みえ.jp	http://www.bosaimie.jp/

防災アプリ

名称	取得方法
朝日Sアラート	「App store」または「Google play」で『朝日Sアラート』と検索するか、右のQRコードからダウンロードする。

朝日Sアラート
iPhone
Android

災害用伝言ダイヤル 171

家族間や友人間など、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。

伝言録音 1 7 1 → 1 → 被災地の方の市外局番からの電話番号

伝言再生 1 7 1 → 2 → 被災地の方の市外局番からの電話番号

171へ発信
音声ガイダンスに従って
- 伝言を録音する:1 → □□□-□□□-□□□□ 被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。 → 伝言を入れる(30秒以内)
- 伝言を再生する:2 → □□□-□□□-□□□□ 被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。 → 伝言を聞く

※NTTの一般電話、公衆電話からご利用できます。携帯電話やPHSからのご利用については、お客様がご契約されている各通信事業者へご確認をお願いします。
※録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての人が聞くことができます。
※暗証番号(任意の数字4桁)により、他人に聞かれたくない伝言など特定の方々の間での伝言録音・再生もできます。

体験利用ができます

【体験利用日】
- 毎月1日、15日 0:00〜24:00
- 正月三が日 (1月1日0:00〜1月3日24:00)
- 防災週間 (8月30日9:00〜9月5日17:00)
- 防災とボランティア週間 (1月15日9:00〜1月21日17:00)

安否確認をしよう
- 災害時は、電話がかかりにくくなります。家族間の連絡は、電話ではなく別の手段を決めておきましょう。
- 災害時は、緊急でない電話はなるべく控えましょう。
- 公衆電話は、比較的つながりやすいので、近所の公衆電話の場所を確認しておきましょう。
- 被災地にかけるより、遠隔地にかけた方がつながりやすいため、遠隔地の知り合いに各自連絡を入れ、情報を集約してもらうことも有効です。

自宅で3日間過ごす時に必要な備蓄品

夫婦2人、乳児1人、子ども1人、高齢者1人の5人家族の場合
夫婦2人と、乳児が1人、子どもが1人、高齢者が1人いる場合に3日間過ごすために最低限必要な備蓄用品です。

大規模災害発生時には「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

全員	3日間過ごすために最低限必要なもの		+αあったらいいもの	
水	□水(1人あたり1日3リットル)	45L		
	□給水タンク	2個		
	□給水袋	2袋		
食料品	□アルファ化米、レトルトご飯	45食分	□野菜ジュース★	15本
	□缶詰(さばの味噌煮、野菜など)★	15缶	□飲料(500ml)★	15本
	□レトルト食品★	15個	□菓子類★	5パック
	□缶詰(果物、小豆など)★	3缶	□健康飲料粉末	15袋
	□加熱なしで食べられる食品(かまぼこ、チーズ)★	5個	□調味料(しょうゆ、しおなど)★	一式
			□栄養補助食品★	適宜
調理補助品	□カセットコンロ	2台	□ラップ★	1本
	□カセットボンベ	8本	□アルミホイル★	1本
	□マルチツール	1個	□高密度ポリエチレン袋★	1箱
	(缶切り・ナイフなど)		□ビニール手袋★	1箱(約100枚)
			□卓上IH調理器	1台
			□ポット	1個
清潔品	□簡易トイレ	75回分	□消毒類★	適宜
	□トイレットペーパー★	12ロール		
	□ティッシュペーパー★	1パック(5個入)		
	□大型ビニール袋・ゴミ袋★	適宜		
	□除菌ウェットティッシュ★	1箱(約100枚)		
薬・救急用品	□常備薬・市販薬★	各1箱		
	□救急箱★	1箱		
情報確認手段	□携帯電話の予備バッテリー	携帯電話の台数分		
	□手回し充電式などのラジオ	1個		
日用品	□懐中電灯	2個	□使い捨てカイロ★	75個
	□乾電池★	50本	□新聞紙★	適宜
	□ライター/点火棒/マッチ	1本		
	□ロープ	1本		
	□ガムテープ	2巻		
	□軍手	5組		
衣類等	□使い捨てコンタクトレンズ★	1ヶ月分		
その他	□感染症対策用品(マスク・体温計・消毒類)★	適宜	□ポータブルストーブ	1台
			□ガソリン携行缶	1缶
女性	**3日間過ごすために最低限必要なもの**		**+αあったらいいもの**	
清潔品	□生理用品★	60個(30個×2パック)		
日用品			□化粧品★	適宜
乳幼児	**3日間過ごすために最低限必要なもの**		**+αあったらいいもの**	
食料品	□粉ミルク(スティックタイプ)★	20食分	□フォローアップミルク	9食分
	□離乳食(アレルギー対応)★	9食分		
清潔品	□おむつ★	70個		
	□お尻拭き★	3パック		
日用品			□母乳パッド★	適宜
高齢者	**3日間過ごすために最低限必要なもの**		**+αあったらいいもの**	
食料品	□おかゆなどのやわらかい食品、高齢者用食品	9食分		
清潔品	□入れ歯洗浄剤★	30錠		
薬・救急用品	□常備薬(処方薬)★	1ヶ月分		
日用品	□老眼鏡	1個	□補聴器用電池★	6個
貴重品・書類	□お薬手帳	1冊		

このリストも参考にしながら、自分の家庭にあったものを備えましょう!

★印マークが付いているものは、日常的に使用する品物です。普段から少し多めに買っておき、使ったら買い足すことで常にストックを切らさないようにしましょう。

地震が発生したら…

地震発生時

①まず身の安全を確保!
机の下に隠れるか、手近なクッションや座布団で頭を保護しましょう。机の下に隠れた場合は、机の脚をしっかりつかみましょう。

②火の始末はあわてずに!
揺れが激しいときはやけどや転倒のおそれがあります。揺れが収まってから落ち着いて火を消しましょう。

③出口の確保!
ドアが開かなくなることもあります。窓やドアを開け避難口を確保しましょう。

揺れがおさまったら

④火の元の確認を!
ガスの元栓をしめ、電気のブレーカーを落としましょう。

⑤火が出たらすぐ消火!
万が一出火したら、あわてず消火しましょう。天井に燃え移る前なら消火器で消火できます。

⑥家族の安全を確認!

避難の時は

⑦あわてて外に飛び出さない!
落下物の危険もあります。あわてずに避難しましょう。

⑧転倒物に注意!
ブロック塀や自動販売機が倒れる危険があります。

⑨徒歩で避難!
車での避難は危険な上、緊急車両の出動の妨げになります。歩いて避難しましょう。

避難後は

⑩協力し合って応急救護!
地域ぐるみで協力しあって、応急救護体制を取りましょう。

⑪正しい情報を聞く!
正しい情報はひとつです。間違った情報に惑わされず的確な行動をしましょう。

⑫余震に注意!

津波警報・注意報の種類

出典:気象庁

警報・注意報	発表される津波の高さ(数値での発表)	発表される津波の高さ(巨大地震の場合の発表)	とるべき行動
大津波警報(特別警報)	10m超	巨大	河川を遡上する津波の速度は、陸上よりも速いので沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
	5m〜10m以下		
	3m〜5m以下		
津波警報	1m〜3m以下	高い	
津波注意報	20cm〜1m以下	(表記しない)	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

朝日町では、JR関西本線より山側を目指して避難してください!

風水害の警報・注意報

大雨が降っている時は、気象庁が発表する警報や注意報を意識して、後の避難に備えましょう。

特別警報 ただちに命を守る行動を!!

警報・注意報の種類

大雨警報・注意報	特別警報	数十年に一度の大雨で、重大な災害の発生する可能性が著しく高いときに発表される。
	警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。
	注意報	大雨による災害が発生するおそれがあるときに発表される。
洪水警報・注意報	警報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。
	注意報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあるときに発表される。
暴風警報・強風注意報	特別警報	数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予測されるときに発表される。
	警報	暴風による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。
	注意報	強風による災害が発生するおそれがあるときに発表される。
高潮警報・注意報	特別警報	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想されるときに発表される。
	警報	高潮による重大な災害が発生するおそれがあるときに発表される。
	注意報	高潮による災害が発生するおそれがあるときに発表される。

その他の防災情報

土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難指示等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報。
記録的短時間大雨情報	数年に一度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析したりしたときに発表する防災情報。

水害時避難の心得

足元に注意
- 水中のマンホールや溝に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。
- 側溝やフタの取れたマンホールに落ちないようにしましょう。
- 長靴は水が入ると重くなり歩けなくなるため、運動靴で避難しましょう。

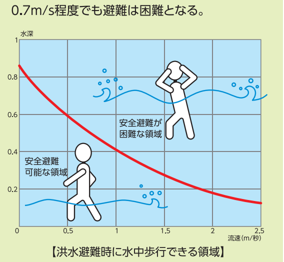
車は使わず歩いて避難
- 避難途中で渋滞になり、避難できなくなります。
- 緊急車両の通行ができなくなります。
- 障害物を越えられず一刻をあらそうときに時間のロスになります。

集団で避難
- 家族や近隣住民の方と一緒に避難しましょう。
- 安否確認や何か起きたときに誰かが知らせてくれます。

ひざまで水につかると歩きにくくなる
- 一般的に人が歩ける水の深さは50cmといわれています。
- 水がひざまである時は、無理な避難はせず近くの建物の高い場所に避難しましょう。

【実験データ】

浸水深が0.5m(大人の膝)程度では氾濫流速が0.7m/s程度でも避難は困難となる。



【洪水避難時に水中歩行できる領域】
実験水路とプールを使用した水中歩行実験結果からとりまとめられたデータ

水害ハザードマップ作成の手引き 平成28年4月 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室より